

令和4年度 岐阜県美術館 第1回美術品収集委員会 議事録

日時	令和4年10月31日(月) 午後2時00分～5時
場所	岐阜県美術館スタジオ、展示室、ホール、別応接室
出席者	<p>(委員) 雪山行二 美術史家・美術評論家(前富山県美術館長)</p> <p>村田眞宏 豊田市文化財課博物館準備室参与(前豊田市美術館長)</p> <p>矢橋龍宜 矢橋ホールディングス株式会社代表取締役社長</p> <p>高橋明也 東京都美術館長</p> <p>長屋光枝 国立新美術館学芸課長</p> <p>花里麻理 茨城県陶芸美術館学芸課長</p> <p>(事務局) 日比野克彦 岐阜県美術館長</p> <p>田中誠記 岐阜県美術館副館長兼総務部長</p> <p>正村美里 岐阜県美術館副館長兼学芸部長</p> <p>青山訓子 岐阜県美術館学芸課長</p> <p>大野陽一 岐阜県環境生活部県民文化局副局長</p> <p>河田哲也 岐阜県環境生活部県民文化局文化伝承課長</p> <p>岐阜県美術館学芸部職員、文化伝承課職員</p>
議事内容および委員からの意見	
<p>日比野館長 挨拶</p> <p>大野県民文化局副局長 挨拶</p> <p>正村副館長 委員、事務局員紹介／進行手順説明／作品説明／各会場で実見ののち協議</p> <p>委員からの意見 (作品実見後の最終意見)</p> <p>【寄贈作品】34点について</p> <p>・土屋禮一(8月に書面決議済み)</p> <p>A委員 これまでに収集された中で比較的少ない1980年代のもの。見事な花だ。展示の機会を。</p> <p>・岡田三郎助、鹿子木孟郎、渡部審也、津田青楓、山下新太郎、長谷川利行、木村荘八、麻生三郎</p> <p>E委員 小品だが魅力的。</p> <p>B委員 内1点についてタイトルについてさらに調査を深めてほしい。一(事務局)了解した。</p> <p>座長 調査研究をすることでコレクターからの信頼も得ることができ寄贈に繋がっている。</p> <p>・ジャン・フォートリエ、ヴォルス</p> <p>D委員 デュビュッフェを所蔵しているのでその文脈において収集してしかるべき。</p> <p>・松井章</p> <p>座長 既に所蔵のスケッチの関連作品。状態が良くないが長期的な視野で修復活用してほしい。</p> <p>・山田喆</p> <p>E委員 文人趣味的な作品は現代では評価されにくい。現代の作品とどうつなぐか工夫を。</p> <p>・染織作品</p> <p>C委員 額装なので美術館としては展示しやすい。面白い。</p> <p>・林茂樹</p> <p>E委員 量産技術を美術作品に使った画期的作品。後進にも大きな影響を与えている。</p> <p>・その他(書:川合玉堂、鯉江良二)</p> <p>D委員 どちらも非常に多才な作家だ。作品と一緒に展示されると興味深い。</p> <p>・横山奈美</p> <p>E委員 郷土ゆかりであり将来性もある人気作家で入手困難。滞在制作作品であり必然性がある。</p> <p>・塔本シスコ【寄託作品10点と併せて】</p> <p>A委員 これまでの収集方針を拓げる意味で重要だ。他館とは異なるアプローチでの展示を。</p> <p>【寄託作品】3点について</p> <p>・前田青邨、山本芳翠</p> <p>D委員 青邨作品は保存研究のための寄託であり、意義がある。</p> <p>B委員 ここは芳翠の研究センターのようなもの、議論の余地はない。</p> <p>館長 以上、寄贈34点、寄託13点について収集に問題なしとご意見いただいた。(お礼)</p>	